

島外の井戸水を確保し、製造にこぎつける

マルカン酢株式会社

1 地震発生時の対応

地震発生時、建物内は無人であった。総務部長は地震後、直ちに自宅を出発し、途中の交通規制にあいながら午後1時頃に会社に到着した。損害状況の確認のために建物内に立ち入ったところ事務所内は、ロッカー、書棚等が転倒し、また移動式ラックも損傷を受けていた。部長はその旨を東京の社長に報告し指示をあおいだ。

その後、次々に幹部が出勤してきたので、今後の対策を検討した。社員の安否の確認は、翌日の18日から大阪の支店が行ったが、全社員約80名の確認については電話だけでは不可能なため、バイクや徒歩により現場の確認を実施した。

六甲アイランドは交通アクセスが不通であり、また、外部との連絡も取れないために、地震直後から大阪支店に本社機能を移転した。しかし、商品の供給がストップした場合、顧客に与える影響が大きいため製造を停止できず、エンジニア・プロジェクトチームにより製造部門の改修・整備を実施するとともに、水源の確保として島外の取引先の井戸水の供給を受けた。

復電は1月21日であり、それに伴い製造部門を再開した。また、水道の復旧は2月8日であった。その復旧までの間、製造部門の社員には自宅待機を指示していた。

2 業務再開に向けて

地震後の10日目頃から、保安要員として社員を呼び出したが、交通のアクセスが無いと、島内のカースクール2か所の生徒送迎用バス（生徒の送迎用であるが、余裕があればボランティアとして島内の事業所の社員も利用可能であった。）に便乗させてもらい、通勤の手段とした。

他に通勤手段として、会社の業務車両を近くの鉄道の拠点まで運行した。社員の生活に必要な飲料水、食料は各自が持参するとともに、会社内で炊きだしも行った。島内の他の事業所はそれぞれの判断で対応し自衛手段を取っていた。

3 教訓

- (1) 多機能の電話機は電源を必要とするので不便である。予備電源で翌日の18日までしか使用できなかった。
- (2) 今回の地震の発生した時間は不幸中の幸いであった。工場や流通倉庫内で作業中に発生していたら、機械類の転倒による人身事故が起きていた可能性がある。あらゆる事態を想定しておく必要がある。
- (3) 熱源はプロパンガスのため、都市ガスの供給ストップによる影響はなかった。